

楽しめる活動を拓げるために

～学校でしたことを家庭でも～

高田由紀子

はじめに

H子は、入学式の日には母親から離れることができず不安な表情であったが、徐々に学校に慣れ、笑顔が見られるようになった。しかし、担任以外との関わりには不安を示し、学級の友だちともうまくコミュニケーションがとれず、泣き出したり、髪をひっぱったりする行動が見られることもあった。友だちの動きを見てまねをしようとしたり、そばに近づき一緒に遊ぼうとする姿も見られるが、粘土や砂遊びでは、その感触を楽しむことだけに没頭したり、積み木などのおもちゃでは、口に入れたり出したりしてひとり遊びになりがちである。そこで、友だちと関わりながら一緒に遊ぶためにも、学習や生活の中にH子の好きな遊びをたくさん取り入れ、本児の楽しめる活動を拓げたいと考えた。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・平成 2年12月生 小学部 1年 女子
- ・てんかん 斜視(両眼) 胸隔変形 歩行不安定(歩きはじめ 2歳 7か月)
- ・精神薄弱児通園施設を経て本校に入学
- ・両親、兄(14歳、16歳)、祖父母の 7人家族

(2) 諸検査による実態

表-9 遠城寺式乳幼児発達診断検査 (H9. 5月実施)

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発 語	言語理解
1:4~1:6	1:0~1:2	1:6~1:9	1:9~2:0	0:9~0:10	1:2~1:4

表-10 新版K式発達検査 (H9. 4月実施)

認知・適応	言語・社会	全領域
1 : 1	0 : 11	1 : 0

- ・自分づくりの段階では、自我の誕生、感情や意欲の育ちの時期にあたり、特定の人との関係を支えに活動を拓げていく時期である。
- ・発語は少ないが、表情や感情の豊かさを考えると対人関係の発達の高さが理解できる。
- ・基本的な生活習慣の高さは、家庭や通園施設での継続的な指導の成果によると考える。

(3) 生活を楽しんでいる姿、楽しめない姿、および行動特性

- ・粘土遊び、砂遊び、水遊びなどが大好きで一人で集中して遊ぶ。
- ・好きな音楽が聞こえると、にこにこして身体を揺らし、手をたたいたりする。
- ・戸外へ出ることが好きで、特に滑り台、ぶらんこなどの遊具や、散歩を好む。
- ・はけ、筆、スポンジなどの感触が好きで、よく手に持っている。
- ・楽しい時、うれしい時は、よく声のでて、動きも活発である。

- ・見通しが持ちにくい活動や、初めて取り組む活動には抵抗を示し、その場から離れたり、指しゃぶりをしたりすることが多い。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

H子の好きな感触を楽しむ遊びをたっぷりと取り入れ、教師や友だちと楽しさを共有していくことで、楽しめる活動を拡げたいと考えた。そうすることで、進んで活動することができ、よりいきいきと生活を楽しむことにつながると考える。

〈めざしたい姿〉 楽しめる活動を拡げ、身近な人と関わりながら、進んで活動する子

(2) 指導の方針

- ・情緒の安定を図るために、担任が側にいて、一緒に活動したり見守ったりする。
- ・具体物や絵や写真を提示したり、実際にしてみたりして、活動内容や方法が理解できるようにする。
- ・友だちと同じ場で活動し、うまくできなくても本児が楽しんでいたら、その意欲を認めていく。
- ・同じ活動を繰り返して行う。
- ・わずかな表情の変化や発声を見逃さず、「できたね」「楽しいね」「おもしろいね」など、共感の声かけをしていく。
- ・本児の好きな音楽や、擬音語・擬態語による声かけを効果的に取り入れていく。
- ・本児の嫌がることは、無理にしない。

これらのことをふまえ、本児が楽しめた実践例を次にあげる。

3 指導の実際

(1) 本児が時楽しめた実践 — 1学期の生活単元学習から —

月	主な単元と活動	支 援	児 童 の 様 子
4	みんななかよし ◎先生や友だちと一緒に遊ぶ。 ・調理 ・散歩、遠足 ・製作 ・遊具遊び	・好きな活動をたくさん取り入れる。 ・歌あそび、手あそびで関わりをつくる。 ・だっこや手つなぎなどのスキンシップを多く取り入れる。	・砂遊び、粘土遊びなどに集中して取り組んでいた。 ・歌にあわせて握手をしたり、肩をたたいたりという関わりを楽しむことができた。 ・担任がそばにいないと不安になり、落ち着かなかったが、学級や友だちにも慣れてきて、笑顔が多く見られるようになった。

<p>5</p>	<p>お父さん、お母さん ◎お父さん、お母さんのまねをして遊ぶ。 ・買い物 ・調理 ・製作</p>	<p>・「グルグル」「ペタペタ」「ギョッギョッ」などと、活動にあわせて歌いかける。 ・素材の感触で十分に遊んでから、調理を始める。</p>	<p>・歌にあわせて身体を揺らし、にこにこして取り組んでいた。 ・調理道具や材料を見るとすぐに手を伸ばしてくるようになった。 ・小麦粉、クッキー生地、おにぎりなど両手で感触を楽しみ、集中して取り組んでいた。</p>
<p>6, 7</p>	<p>なつだ!なつだ! ◎はだかになって思いきり遊ぶ。 ・水遊び ・ぬたくり遊び ・粉遊び ・泡遊び ◎なつまつり ・調理(だんご) ・製作</p>	<p>・様々な素材や道具を用意し、自由に選びながらたつぷりと遊べるようにする。 ・「ペタペタ」「トントン」と歌いかける。 ・模造紙を敷き詰め広い場を用意する。</p>	<p>・自分から積極的に遊び、興奮気味に大きな声を出すこともあった。 ・ひとりでの遊びに没頭することもあるが、友だちと水をかけ合うなどの関わりが見られた。 ・絵の具を刷毛や筆につけて、紙になぐり描きすることが多くなった。 ・先生や友だちから絵の具をつけられると声を出して喜んでた。 ・友だちの手についた泡を取って自分の手のひらにつけ、その泡がなくなると、また友だちの泡を取るなど友だちとの関わりが見られた。 ・だんごの感触を楽しんで作った。</p>



「おいしいクッキーになあれ」



「おにぎりギョッギョッギョッ」



絵の具で「ペタペタ」

(2) 家庭との連携

生活ノートや学級だよりを通じて、家庭に学校での学習を事前に連絡したり、活動の様子を伝えたりしていることが、楽しい活動をさらに深めることにつながっている。その例として、生活ノートにおける家庭（母親）からの記述をあげた。

学校での学習	家庭での様子（生活ノートより）
クッキー作り （母の日の プレゼントとして）	クッキーをトントンとたたいて「見て見て」という感じでした。「上手にできたね。うれしいな。」というと、ニコニコと嬉しそうでした。（5月8日）
カレーライス作り （お父さん、お母さん を招待してカレー ライスパーティ をひらくために）	家へ帰り、皮むき器をみせて「これでおいもさんをむいたの？」と言うと「そうそう」という感じでかけよってきました。（5月17日） 私がたまねぎの皮をむいていると、皮むき器を探している様子。どうするのかなと見ていると、今度はじゃがいもを持ってきました。学習したことをよく覚えているようです。（6月12日）
粉遊び （ホットケーキ、ク ッキーを作る前に）	小麦粉遊びは、家でもやっています。料理で使っている時も、そっと手を伸ばしてさわったりします。（6月18日） 「今日は天ぶらだよ。」と小麦粉を出すとさあ大変、手を出して遊ぼうとしていました。（6月25日）
泡遊び （絵の具で遊んだ後 で）	台所へ来て、洗剤のあわをさわって、手でパンパンたたいてとぼしたりしていました。お風呂でもやっていました。ちゃんと復習しています。（7月10日）
ぬたくり遊び （絵の具遊び、なぐ り描き）	学校から持ち帰ったクレパスをさっそく出して「あーちゃん」と書きたい様子、紙を出すと集中してしばらくかいていました。（7月18日）

母親が「H子が家ですることを見ていると、今日学校で何をしたのかがわかります。」と言われる。この発言から、繰り返し取り組むことで、その活動がH子のものとなり、家庭でも進んで活動していることがうかがえる。

4 反省と課題

- ・遊びを中心とした生活単元学習を通して、本児は学校生活を楽しみ、その活動を休み時間や家庭においても行うようになった。また、学級の友だちと一緒に活動しようとするが増え、友だちや先生との人間関係も広がっていった。
- ・意欲や感情は育ちつつあるので、今後はそれを大切にしながら、認知力や手指の巧緻性の向上のための手立てを考えていく必要がある。
- ・遊びから実際の生活の場に（泡遊びと手洗い、粉遊びと料理など）どう広げ結びつく指導をしていくかが課題である。